

株式会社 スパンギャルド

テーマ

高付加価値の染色技術開発及び生産システムの合理化による生産性向上

目的

新潟県内の生地・伝統染色技術を活用したバッグを企画・製造しているが、色や柄を重ねて染める技術を開発し他社との差別化を図るとともに、システムの合理化により生産性を向上させ、百貨店や海外市場での売り上げ増加を図る。



事業の内容

■事業取組みの経緯

- ①新しい染色技術を開発し、他者との差別化を図った製品を生産する。
東急ハンズ銀座店のような観光客が多い地域のバイヤーからは日本製品の需要の高まりを耳にしていた。当社は日本製品を供給しているが独自性に欠けている。そこで素材に着目し新しい染めの技術を開発し他者との差別化を図り、独自性を持たせていく。
- ②生産システムを合理化し納期短縮、コスト削減を目指す。
取扱店舗から売り逃しを避けるために、短い期間での製品の追加を要求され、さらには消費者が購入しやすい価格設定を求められていた。自社工場では手作業中心による小ロット対応をしていたが、機材を導入することで生産性を上げ、納期短縮、コスト削減を目指す必要があった。

■実施内容

- ①新潟の伝統的な染色技術であり、かつ他の地域にない技法で染めた生地の開発。
現在の手法で注染という技法があるが、それを応用し色や柄を重ねて染める技法を確立し、知的財産（特許、実用新案）の申請、取得を目指した。従来の注染では、柄の上に柄を乗せる事が出来ないが、新技法・新生地は、染料の温度をコントロール、色の滲みを防ぐことができる。染料を流し込む際に染料の温度を一定の温度に設定し流し込む。さらに上から新たな染料を流し込むと1度目に流し込んだ染料が同じ温度だと滲んでしまう。そこで2度目の染料の温度を変えて流し込む。その際の適温は試作を繰り返し実験する必要がある。
- ②機材導入する事で裁断など外注に委託し、手作業で行っていた業務を社内で円滑に行い合理化する事でコスト削減。
・現在外注に委託し、手作業で行っていた裁断業務を裁断

機導入で社内にて行い時間短縮を図った。
・ミシンの台数を増やし作業の工程を細かくライン化する事で効率をアップさせた。

・付属品（カシメなど）の取り付けを手動から自動、またはより専用の機材を導入し生産性を向上させた。

事業の成果

■事業取組みの成果

本事業の目的である試作品は、事業計画通りに重ね染めのトートバッグが完成した。その試作品の成果は下記のとおりとなった。

- ①品質の付加価値のレベルは想定された指数よりも高い数値が測定され、計画比0.5ポイント上回り取引先要求付加価値度の要求を満たす結果となった。
- ②価格については、納期の短縮と共に計画想定目標を上回りコストダウンでき目的を達成した。
- ③染色する生地は強度の高い生地を使用したことにより量産可能な型を作成する事に成功した。また、手彫りで型

を製作する事によりサイズの大きな生地に対応出来るようになった。

④染色作業に関しては綺麗に仕上げる事ができ、洗浄作業において色移りの問題を克服した。



にいがた経済新聞の目



今後は足袋など“和”の商品を拡充

バッグや雑貨などのメーカー。メンズは、ストーリーを語る高級路線、レディースはお手頃感を感じることができる商品を中心に製造・販売している。例えば、男性バッグであれば、江戸時代創業の越後亀紺屋 藤岡染工場で作られた伝統の生地を使ったバッグ、和歌山県の梅の種（産業廃棄物）を炭化させ、それを染料に使ったバックなどだ。

製造は東区の本社で行っている。販路は、東急ハンズ、ロフト、雑貨店、百貨店内などのほか、日本の逸品をセレクトして販売するオンラインショップ「藤巻 百貨店」などだ。今年夏には自社のオンラインショップも開設した。

今後は、海外の販路開拓にも力を入れる。大手IT企業で働く米国・ニューヨークの知人を頼り、同国内で代理店を探しているほか、米国版のアマゾンでの販売も目指している。またドイツの知人の人脈を活用し、欧州でも販路開拓にも取り組んでいく。

さらに、和のデザインをプリントした室内用の足袋など商品の拡充にも取り組んでいく計画だ。「新潟から世界を目指していきたい」と残間健太郎取締役プランニングディレクターは話す。



残間 健太郎 取締役

■事業者の概要

事業者名	株式会社 スパンギャルド
所在地	〒950-0027 新潟県新潟市東区松和町8番26号
代表者名	代表取締役 残間 静子
電話番号	025-383-6810
F A X	025-383-6809
設立年月	平成18年9月
資本金額	1,000万円
従業員数	9人
業 種	繊維工業
U R L	http://thecanvet.com
E-mail	info@spangarde.com

